

震災後の児童生徒の心のサポート研修講座
2012.5.12-14

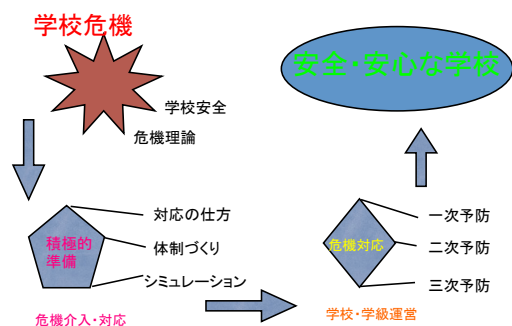
学校危機後における 学級・学校運営

瀧野揚三

大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター

©2012NMSCSC

安全・安心な学校に向けての取組み



©2012NMSCSC

危機の予防と教職員の実践

- 一次予防：危機の発生を事前に予防 (prevention)
→リスクを事件・事故につなげない、育てる、伸ばす
→組織的な準備 (積極的準備)
- 二次予防：危機介入により危機の増加を阻止 (intervention) → 応急手当
→PFAの知識、PFAの研修、コンサルテーション
- 三次予防：危機発生による被害からの回復支援 (postvention)
→チーム支援体制：個別の指導計画、中長期支援

©2012NMSCSC

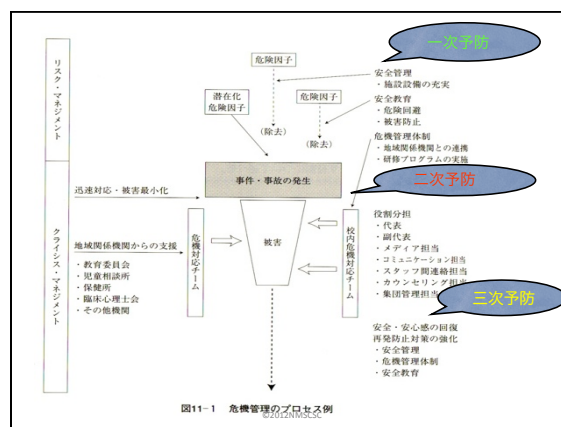


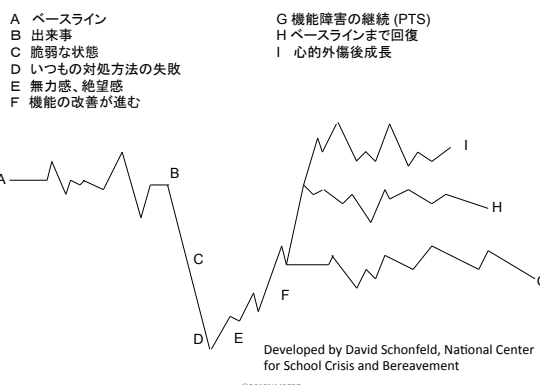
図11-1 危機管理のプロセス例

©2012NMSCSC

アメリカ合衆国教育省のモデル



©2012NMSCSC



Developed by David Schonfeld, National Center for School Crisis and Bereavement

©2012NMSCSC

PFA for Schools LPC-Model & Teach

1. Listen 耳をかたむける
2. Protect 守る
3. Connect つながる
4. Model モデルになる
5. Teach 教える(心理教育)

- National Center for School Crisis and Bereavement <http://www.cincinnatichildrens.org/school-crisis>
- http://www.ready.gov/sites/default/files/documents/files/PFA_SchoolCrisis%5B1%5D.pdf
- 日本語版 <http://pcit-japan.com/resources.html>
- REMS Helpful Hints: Psychological First Aid (PFA) for Students and Teachers: Listen, Protect, Connect – Model & Teach http://rems.ed.gov/docs/HH_Vol3Issue3.pdf

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 重要な生活の場での事件・事故・災害
 - 大きな衝撃
 - 心身への影響
- 登校しぶり
- 興奮
- 自信喪失、不安定

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 学級への復帰
 - 友だちや教師の支え
 - 保護者からのサポート
- 安全や安心を確認しつつ回復へ

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 安心・安全・信頼感がもてる学級
 - 課題になる事柄
 - 陰口（出来事のこと、トラウマ反応）
 - いじめ
 - 孤立

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 学級の雰囲気
 - 援助的であたたかいもの
 - 所属感が持てる

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 教師との信頼関係
 - 一般的なトラウマ反応についての知識
 - 事件や事故の状況把握
 - 本人との面接、行動（態度や表情）の観察
 - 学校生活の状況把握
 - 家庭生活の状況把握

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 安全・安心・信頼感がもてる学級運営
 - ていねいな対応・・・自分は「大切にされている」
 - 思いやりのある学級
 - 子どもたちそれぞれの存在感がある
 - お互いのことが考えられる
 - 先生の対応が子どもたちのモデルになる

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 安全・安心・信頼感がもてる学級運営
 - ワークを取り入れてみる
 - みんなが参加できる
 - 軽く体を動かすことで、気分転換できる
 - 勝敗を競うようなものは避ける
 - 友だちのいいところ探し
 - 自分の興味関心について話す（自己開示）
 - 緊張感をほぐし、自己表現や他者理解を促進

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 安全・安心・信頼感がもてる学級運営
 - 保護者へ理解を求める（説明責任）
 - トラウマ反応についての心理教育
 - プライバシーへの配慮
 - 関係者間での打合せ
 - 学年間の引き継ぎ

©2012NMSCSC

学級での対応の基本

- 教師自身の自己理解
 - 教師も影響を受けている
 - 教師の自己開示
 - サポートを求める
 - 同僚、主任、管理職、養護教諭、スクールカウンセラー
 - 自己客観視ができる機会、整理できる機会
 - エンパワメント→力量アップのチャンス
 - 子どもたちと一緒に考えていく姿勢

©2012NMSCSC

学校の役割:安全、安心の提供(1)

- 教職員からの安心感を受けとる
- ピアサポートの考え方(クラスメート、部活、生徒会)への注目と活用
- →→きょうだい、家族や地域への拡がりを期待

©2012NMSCSC

学校の役割:安全、安心の提供(2)

- 防災教育の実践
 - 安全な実践の仕方
 - 心理面に配慮ある実践
 - 再発防止の観点から必要
 - 回復に向かう過程では安全感、安心感が必要
 - 次は、こうやれるという自己効力感が必要
- 通常の教室の安全感や安心感(生徒指導提要も参照)

©2012NMSCSC

対応の基本:ていねいな対応

- いつもより早めに準備
- 事前に打ち合わせ(生徒、保護者)
- 教材のチェック
- チーム支援体制
- プロセスの理解
- 事後のフォローアップ(電話、声かけ)

©2012NMSCSC

学級での具体的対応

- (1)事件・事故直後の初期対応
 - 被害にあった子どもへの関わりの基本
 - さまざまな課題
 - トラウマによる心身の不調
 - 友人関係のトラブル、いじめ問題
 - 授業中の集中力低下、学習の遅れ
 - 保護者における心配や不安の増大
 - 家庭生活における混乱

©2012NMSCSC

学級での具体的対応

- (1)事件・事故直後の初期対応
 - 教師が子どもと一緒に考えていく対応
 - できることやできないこと
 - したいことやしたくないこと
 - 自己効力感や自信、自己コントロール感の回復
 - 無力感(自分は何もできない)からの回復
 - 漫然とした感情(自分の気持ちがよくわからない、なんとなく怖い)
 - 教師の熱意と子どもの回復の関係

©2012NMSCSC

学級での具体的対応

- (2)事件・事故直後の対応
 - 安心して話せる場や時間の確保
 - 学級の子どもたちへの説明
 - 保護者への説明
 - 子どもへの個別対応、個別事象
 - 学校全体での対応

©2012NMSCSC

学校としての対応

- 事件・事故直後の対応
 - 危機対応チームの編成
 - 事件事故時の緊急処置
 - 当初の連絡
 - 事件事故の目撃児童生徒への対応
 - 事実の確認
 - 情報の整理、共有化、今後の対応についての検討
 - 子どもたちや保護者への説明
 - マスコミ対応
 - 子どもたちへのケア
 - 心理教育用のプリント作成、保護者会での説明

©2012NMSCSC

学校としての対応

- (1)初期の事後対応
 - 保護者会のもちかた
 - 事実の説明
 - 今後の具体的方針
 - 災害時の心の反応(心理教育)
 - 教師への心理教育の研修、ワーク
 - トラウマとは何か
 - ストレス反応についての理解
 - 教師のコンディションの大切さ

©2012NMSCSC

学校としての対応

- (2)初期の事後対応
 - 教師自身の心身の状況を考えながら学級経営
 - 学級経営と教師の配置
 - 子どもたちへの説明
 - 全校、学年、学級単位？、集会の形態と配慮
 - 話す内容の統一、文書作成
 - 必要であれば、リラックスやリフレッシュする時間を設定
 - 感情を表現できる活動（描画、工作、合唱など）、軽い運動
 - 体調が悪くなった子へのサポートのために複数の教員が対応

©2012NMSCSC

学校としての対応

- (2)初期の事後対応
 - 授業の開始
 - 授業への集中の低下
 - 授業時間の調整、授業内容の調整、時間割の工夫
 - 教材への配慮
 - 気分転換のためのこつ

©2012NMSCSC

学校としての対応

- (3)中・長期対応
 - 信頼される学校づくり（再発防止）
 - 事件事故後の対応について報告
 - 問題への対処
 - 改善策
 - 安全感、安心感の回復
 - 学校の信頼感の回復

©2012NMSCSC

学校としての対応

- (3)中・長期対応
 - 子どものケア体制
 - 個人差が大きくなる
 - 個別のケアが中心になる
 - 初期からの子ども個人の情報を整理し、援助にあたる関係者間で共有することが必要

©2012NMSCSC

学校としての対応

- (3)中・長期対応
 - アセスメントとそれにもとづくケースマネジメント
 - 観察：授業中、休み時間、保健室の利用状況、行事への参加状況
 - 実際の対応についての目安
 - カウンセラーによる対応が必要と思われる場合
 - 医療機関につなげる方がいい場合
 - アンケートの継続実施
 - 専門家の指導の下で作成と実施
 - アンケートの説明、承諾、個人情報の保護

©2012NMSCSC

学校としての対応

- (3)中・長期対応
 - 子どもへの対応：事件・事故の影響が潜在化
 - 個別対応が大切
 - 保護者、養護教諭、カウンセラーと連携（情報交換）
 - 教材や行事の準備
 - もう大丈夫・・・に注意しましょう

©2012NMSCSC

学校としての対応

・(3)中・長期対応

- 子どものケア体制・・・子どもへの対応
 - ・ ケア担当責任者の設定、チームで対応を考える、外部の専門家(主治医など)
- ・ 学校行事、追悼行事など
 - 事件や事故を思い出すこともある
 - 事前の準備を入念に、参加の形態を考慮する
 - 事前に行事の流れを書いたプリントを配布したり、保護者会で説明をする
 - 時間の経過と共に、いまでもそうなの？といわれそうな「自分の感じ方や考え方が間違っているのではないか」という罪責感に苦しんでいる子もいます→個別対応、各々の子どもの感じ方や考え方が異なるのは当然
- ・ 事件・事故の場所の扱い方・・・さまざまな思いのある場所

©2012NMSCSC

学校としての対応

・(3)中・長期対応

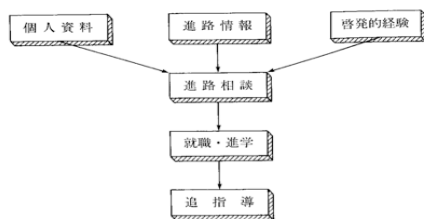
- 長期的なフォローのために
 - ・ 引き継ぎのポイント
 - 事件事故時にどのような状況に遭遇し、どのように感じたか
 - 事件や事故当初、どのような心身の影響が出ていたか
 - その後の経過
 - 回避または制限されていること
 - 全般的な様子
 - 行事や授業で配慮したこと
- ・ 個人情報への配慮、プライバシーへの配慮

©2012NMSCSC

長期の継続的支援のために

……進路指導の実践を思い出して

～ 卒業生に対して ～



【進路指導の諸活動】(玉瀬, 1978)

©2012NMSCSC

追指導の発想

- ・ 学校や教職員は進級、卒業後も援助資源の一つである
- ・ 池田ではニュースレターやパンフレットの発行を続けています。

©2012NMSCSC

まとめ

児童生徒が苦戦しそうな点とその対応

- ・ 行事が苦手な場合もある
- ・ 校外活動
- ・ リマインダーの理解、でも、向き合う事も必要
- ・ 新奇な事柄(場所、内容、人)への苦手意識
- ・ 対人関係
- ・ 学習の遅れ(集中力、自信などの低下、取組みの回避)
 - 加配の教員の活用
 - 補習、試験前の補習
 - 取り出し授業

©2012NMSCSC

NMSCがお手伝いできること

- ・ 情報提供: 生徒に役に立つ情報や提案をできるだけ
 - ・ 先生方と一緒に考えていきたい: コンサルテーション
 - 学校運営
 - 学級経営上の工夫
 - 社会性・・・SST、ピア・サポート、SEL、問題行動、いじめ予防
 - 学習支援・・・小グループ、個別の対応
 - 観察やアセスメント
 - 心のケア・・・援助ニーズのアセスメント、援助資源につなぐ
 - ・ 全教職員が健康観察の意識をもってもらえるように！応援します
- メールでも、電話でもご連絡ください

©2012NMSCSC